

平成26年度第1回 合同審議会議事録

日 時 平成26年11月4日(火) 10時00分～11時20分
場 所 田沢湖総合開発センター 1階 大集会室
出席委員 (田沢湖地域審議会委員)
中村正孝会長、藤川栄委員、千田博夫委員、千葉なみ子委員、
千葉智永委員、浦山力委員、三浦久委員、小松尚委員(8名)
(角館地域審議会委員)
柴田政幸会長、吉田愼一副会長、藤原久榮委員、雲雀明德委員、
小林郁男委員、新山睦子委員、千葉一明委員(7名)
(西木地域審議会委員)
門脇健郎会長、武藤晟平委員、武藤清茂委員、赤倉祐子委員(4名)
合計 19名

欠席委員 (田沢湖地域審議会委員)
佐藤厚子副会長、佐藤公平委員、三浦陽一委員、吉田裕幸委員、
細川俊雄委員、古郡洋平委員(6名)
(角館地域審議会委員)
石郷岡勇一委員、宮田憲隆委員、相馬博之委員、茂木千代太郎委員、
黒澤昇委員、鈴木八寿男委員、藤原悟委員(7名)
(西木地域審議会委員)
橋本左武郎副会長、佐藤雄孝委員、橋本敦子委員、沢山純一委員、
齋藤瑠璃子委員、佐藤一委員、阿部昭司委員、鈴木富士男委員、
布谷和好委員、佐藤幸委員(10名)
合計 23名

仙北市関係者

仙北市長 門脇光浩
副市長 倉橋典夫
総務部長 藤村好正
田沢湖地域センター所長 草薨正敏
角館地域センター所長 大澤龍太郎
西木地域センター所長 高橋貞次

事務局

企画政策課長 平岡有介
企画政策課参事 戸澤浩
企画政策課企画政策係 主任 柏谷有紀

- 会議次第
1. 開会
 2. 各地域審議会会長あいさつ
 3. 市長あいさつ
 4. 答申書・提言書の提出
 - 1) 田沢湖地域審議会答申書・提言書
 - 2) 角館地域審議会答申書・提言書
 - 3) 西木地域審議会答申書・提言書
 5. 意見交換
 6. 閉会

内 容

・各地域審議会会長あいさつ

(柴田角館地域審議会会長)

今ここに座り、やっと終わったという気持ちです。今日はまとめになるということで、果たして皆様のご期待にそえるかは不安ですが、よろしくお願い致します。

(中村田沢湖地域審議会会長)

1月に入りまして、北の方から雪のたよりが聞こえてきております。まもなく冬將軍の先発隊が訪れそうな時期になりました。今日は提言書等の提出ということで、皆様方にお集まりいただきました。十分ではないかもしれませんが、市長にお渡ししたいと思います。よろしくお願い致します。

(門脇西木地域審議会会長)

急に寒くなり体の調子を悪くしないような気持ちで出席致しました。さて、提言書等の提出ですが、これに至るまで各地域審議会で相当な議論をされたと思います。私達も相当熱くなり議論しました。各地域のことを考えながらまとめた意見書ですので、これを反映して、市長が実現に向かって努力してくださるように要望したいと思います。

・市長あいさつ

おはようございます。皆様方の任期は3月までありますが、各地区の会長・副会長、また委員の方々にはご熱心に審議をいただきまして、本当にありがとうございます。心から感謝を申し上げたいと思います。時間のある限り、各地域審議会に参加させていただき、意見等について加わってきました。感想としては共通テーマもあり、各地域が抱える課題解決に向け、たくさんのご提言があった訳ですが、ソフト、ハードを考えていくと、ハードの整備よりも地域の特徴を活かしたソフト事業の必要性について、大変色んなご議論をいただいたと思っております。既に私達は合併して来年で10年を迎えます。その中で見えてきたもの、またこの後の10年間に向けて取り組まなければならないことについて、多くのご示唆をいただいたと思っております。この後、これを実施していくという堅い決意です。また今回このようなタイミングで合同審議会を開催できた

ことは、まもなく本格化する平成27年度の予算編成についても取り組んでいきたいという思いからとご理解いただきたいと思っております。

最近の仙北市の状況ですが、国文祭も昨日で終わりました、文化の継承、維持発展についてたくさんの掘りおこしが行われておりました。たくさんの方からご協力をいただき、重ねて感謝を申し上げます。そのような取り組みの中で将来にしっかりと残さなければいけない物が、具体的な各場面で出てきたということも事実であります。更に私どもとしては、この地域に住み続けたいという市民の方々を、出来るだけその意に即した形で実現をしたいという、大きな大きな目標に向かって進むことが必要であります。私としては所得の確保が必要という考え方でありました。皆様方には共通テーマということでご審議いただきました。やれる事はまだまだあります。今の取り組みは薄いけれども、この後取り組むことによって町が変わっていき、その変貌が若い方々の世代に影響を与え、夢と希望を持ち続けた活動のエネルギーにつながっていくという、しっかりとしたビジョンを皆様方と共有したいという気持ちであります。市民の方々、行政に携わる職員が大きな目標に向かってつき進んでいくという一体感を、この審議会の中から生み出していただきまして、次の世代にしっかりと受け渡していくという作業の繰り返しのきっかけとして、今日は大変重要な審議会でありますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。重ねてこれまでの皆様方のご協力に心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

4. 答申書・提言書の提出

各地域審議会会長より市長に答申書・提言書を提出。

1) 田沢湖地域審議会答申書・提言書

中村会長より提言書の概要説明。

修正箇所	2 ページ上から 10 行目	「組織化され」→「組織化された」
	2 ページ上から 15 行目	「更なる多言語」→「更なる多言語化」
	2 ページ下から 8 行目	「生薬草園」→「薬草園」
	4 ページ	「減反政策の栄光」→「減反政策の影響」

2) 角館地域審議会答申書・提言書

柴田会長より提言書の概要説明。

※テーマが非常に話し合いにくいものであったため、今後は皆さんが活発に意見を出せるようなテーマを設定していただきたい。

3) 西木地域審議会答申書・提言書

門脇会長より提言書の概要説明。

5. 意見交換

事務局 平岡課長	意見交換に入る前に、答申等を受けての思いや、今後の政策の方向性等について、市長からお話をいただきたいと思っております。よろしくお願ひします。
----------	--

門脇市長

審議会から答申書・提言書をいただき、重ねてありがとうございます。いつも思うことですが、もちろん行政は地域を守っていくということが大きな仕事です。様々な機能を有し、行政のプロの集まりが役所ですので、皆様方の役に立たなければ役所でないという思いはもちろんあります。一方で最近特に思っていることは、市民協働ということで、こんなアイデアがあるけれどもどうだろうという機会がよくあります。しかし提案いただいた側の市の方で限界があると思っています。それは補助制度であったり、人のサポートに対して限界があると感じています。ただ、これも市の組織だけではなくて、市が日ごろから連携してる国や県、各市外の様々な財団、民間の方々との情報提供で一定の効果が期待できるということも当然あります。そうすると提案いただいた方は、夢の実現のために事業の主体者になって活動していくことにならなければなりません、どうも提案した窓口でとまってしまふことがあります。大変重要なアイデアがそこで途切れてしまっているという場面があると感じます。今ここにある提案を取り組むだけで、まちは相当変わる可能性があるものばかりですが、それを行政が主体となっていくということは、先ほどお話ししたとおり限界があります。市民の方々が主体となっていく体制をどう作っていくかを悩んでいます。例えば農林の事業でも、補助金交付で役割を担えるかという、それは一定の目だしにはなるとは思いますが、その後それを作っていく方が成長していくという担い手がないことには、ただお金をばらまくということに成りかねないと反省しています。やはりまちを支えていく主権者は市民の方々であり、その市民の方々の挑戦したいことを応援することは行政の使命です。その関係が、情報のやりとりでうまくいかなかったことや、途中で途切れてしまひ潰れてしまっている。非常に残念に思っています。あくまでも仙北市の主役は市民の方々です。市民の方々が自分たちの目標に向かって突き進んでいくという強い期待を持つような、まち・地域を作っていくことが何よりも大切ではないかと思っています。誤解される発言で大変恐縮です。行政はそれでいいのかという話に聞こえるかもしれませんが、もちろん行政も最大のがんばりを約束します。しかし主体はやはり市民の方々だと最近強く感じています。この地域審議会の意見のやりとりに参画した方々は、本当に地域のリーダーになる方々だと思います。そういった機会を他の方々にも伝えていただきたいと思います。

事務局 平岡課長

本日は会長様が3名おられますので、進行は事務局で行わせていただきます。それでは意見交換に入らせていただきます。

(田沢湖) 中村会

答申書等には入ってきませんが、私は退職後に3年ほど仙北地域振興

長

局に勤務させていただきました。その際に各事業所をまわりました。3年間で1000件近い事業所だったと思います。その中で、男の人の働く場所が少ないということで、お嫁さんをもらえないということをお話した方もいました。それなりの経済力を持たなければ、家庭を持ってないという考え方もあると思いますが、そういった面で若者が外に流れていくということも想定されると思います。また雪の多いこの地域にくる企業というに限られてくるかもしれません。企業誘致ということで簡単に提言はできますが、男性向きの工場も必要という声がありました。縫製工場などの女性向きの工場はありますが、男性向きの工場は少ないのではないかなと思いました。

倉橋副市長

答申ありがとうございました。皆様からのご提言を見まして、3地区共通した内容で、新たな品種の開発がありました。それから道の駅についても共通点でした。提言を受けて市としては、来年度予算に反映させる事項について整理させていただきたいと思います。それから来年で合併して10年になるため、今の総合計画の見直しとなります。時期の総合計画に、提言の中から取り上げていかなければならない課題があると思いました。道の駅については基礎調査を行っている段階です。具体化するまでには数年かかるとは思いますが、仙北市内に道の駅を整備したいということで、基礎の調査ですが現在行っていることをお伝えしたいと思います。それから各地域の個別課題です。田沢湖についてはクニマスについて触れられています。ようやく県との協働プロジェクトということで、クニマス未来館の建設について準備が進められています。その中で、今回の提言にある内容について検討させていただきたいと思います。角館の人口減少対策ですが、子育て対策については新しい助成制度を検討しているところです。可能であれば27年度予算で対応と思っています。それほど大きな金額にはならないと思いますが、前に進めていきたいと思っています。教育環境についても新しい子育て制度が始まるということで、皆さんと一緒に環境整備を進めていきたいと思っています。西木のかたまえ山森林公園については田沢湖のクニマス未来館建設問題について議会で議論した際に、田沢湖畔全体の振興を図っていくということで、かたまえ山森林公園の整備にも触れました。今までもしてきましたが、もう一度精査して進めていきたいということで、今回の提言を活かしていきたいと思っています。具体的なお話もありましたので、職員に周知して取り組みたいと思います。

(西木) 門脇会長

先ほどの市長あいさつの中で、解できない部分がありました。市民協働という話しをされましたが、限界があるということがよくわかりませんでした。それから情報提供についても、重要なアイデアが途切

れるということをお話されました。思いがあつて話しをされたと思いますが、具体的にどんな事例があつたのでしょうか。もう少しかみ砕いてお話してもらいたい。また市民を主体するためにはどうしたらいいのかということもお願いします。それから各地域審議会から提言書が提出されましたが、提言書を見ながらこれに対応するにはどうしたらいいのか、ということ企画するのはやはり行政だと思います。そして企画する中に市民をまきこむと。それと副市長がお話した総合計画についてですが、私も役場にいた関係で携わってきた経緯もあります。どうも書いてあることが理想論すぎて現実に結びつかないのが多いと思います。今の総合計画を全文読んだわけではありませんが、もう少し現実味があるものにしてもらいたいです。市民が見て、何に取り組もうとしているのかがわかるような計画にしてほしいと思います。

倉橋副市長

先に総合計画についてです。門協会長がおっしゃった様に、行政の計画は理想論で実際に市民の方々にわかっていただけない部分が多々あったと思います。私も今の総合計画策定に関わりまして、非常に反省しなければならないと思っています。来年度に新しい計画を作りますが、職員にはわかりやすい計画にしたいとお話しています。分厚い計画書はいらないので、門協会長がおっしゃったように、何に取り組むのかをわかってもらえるような計画でなければ意味がないと思っています。十分に出来るかはわかりませんが、今おっしゃられた事を実施できるように努力致します。

門協市長

市民協働のお話ですが、市民協働のまちづくり基本条例ができています。これはこの条例だけでは形にならないという思いもあり、その前後で産業振興基本条例もできています。この2つの車輪がうまくかみ合えば効果が出てくると思っています。市民協働の方は、市民の方々と行政や各企業が、自分たちの出来ることを自助公助共助の考え方のもとに提供し合うということで市民力を高めていくということが、市民協働のまちづくりの基本的な考え方です。市を良くしていくための義務・権利の前に、自分たちのまちは自分たちで支えていき、発展させていくという気持ちを高めていくために、市民協働のまちづくり基本条例を作りました。その思いをしっかりと市民の方々と共有しなければならないという思いが強いということです。もう1つの車輪の産業振興条例は、全国的な例からみると農業や産業に組み込んでいないものが多かったのですが、仙北市は農林業が主体の分野という考え方ですので、商業、観光業、サービス業、製造業、役所の仕事も含めて、みんな連携してまちの所得の確保や経済対策をしていこうということです。産業面と精神的の対になっています。こういったことをしっか

りと自覚し、相対力で取り組んでいきたいという重いです。窓口の話しですが、情報がとまってしまっていると。例えば交差点の信号機の下に役所でスコップを買って置いておくと。雪が降った後に除雪車が出ると交差点の所に雪が残されます。それを交差点を通るときに、スコップを使って少しでもよせてもらおうというアイデアが持ち込まれても、建設部には届いていなかったなどです。他にも除雪の話しですが、町中で雪捨て場所がないと。そういった時に自分の空き地を使ってもいいよと。ただ固定資産を減免してもらえないかというような話しを持ち込まれても、税務課に届かなくて検討ができていなかったというような例です。情報が滞ってしまっていると。今聞けばなるほどなどと思うようなことだと思えますが、それが政策で活かしていないという場面が結構あります。情報の連絡網といったものを庁舎内で作っていくことをしなければならないと。現場と行政の間の意思疎通が上手くできていなく、いいアイデアが抜けしまっているということを心配しているということです。それから市民のまきこむという考え方ももちろん重要です。逆に市民が行政をまきこむということも重要です。これも市民協働の考え方です。それに比べて職員数が減少しており、追いついていないという状況もあり大変申し訳無い気持ちです。しかし、どうにかして市を10年20年発展させていくためには、良いアイデアを出された後に、市でも情報が滞ることが無いように努めますが、発信者の方々も主体になって活動に取り組んでいただきたいということです。

(西木) 門脇会長 わかりました。是非とも市を巻き込んでいきたいと思しますので、よろしくをお願いします。

(西木) 武藤清茂
委員 各地域から意見はでましたが、共通して取り組んでいかなければならないのかなと思います。部分的にいろんなことがあると思いますが、市全体でどのように総合的に取り組んで行くかという部分が大切だと思います。各部署だけで進めていくのではなくて、全体を考えた取り組みが必要です。共通テーマは、若者の仕事が無いなどもわかりますが、その中でどうやっていくかという事が課題だと思います。現実的に仕事がない、若者がいない、雪がふる、などの悪いことばかりでは良いことは絶対生まれてきません。その中でどうやって進めていくか。市長が言われたようにみんなを巻き込んでいくなどの意識付けを行っていくことが必要と思いました。せっかく3町村が一緒になったので、全体的に考えた取り組みが必要です。各部分だけを良くしようとしても出来ないと思います。門脇会長が言ったように、店もない、農業の空いている土地もたくさんあるということは現実にあります。空き家もどんどん増えています。そんな中でも、住んでいる方々が一緒にや

っていけるような全体的な取り組みが必要と感じました。無いものは無いではなくて、そこからどうやって出発していくかが大切だと思いました。

(田沢湖) 三浦久
委員

道の駅が共通部分でした。確かに道の駅はすごい集客力があり、大変人気があると思います。しかし両面があると思います。そこに商品を出すと利益があがると思います。しかし雫石のあねっこだと、沿線の食堂は7～8割はやめてしまったのではないかなと思っています。頑張っって税金を納めてきた方が、国の道の駅が出来ることで倒産してしまうと。野菜や山菜を出す方々、職場として働き口がある方については非常に良いことだとも思います。私は湖畔に住んでいますが、昔はわらびだっつりの山菜がたくさんありました。今は山菜を根こそぎもっていかれ壊滅状態です。道の駅の場所や内容もよくよく考えて設置する必要があると思います。影響が良い面もあるし、マイナスの面もあるため、両面を考えて進めてもらいたいと思います。市長がおっしゃったことは、私もそう思います。何でも市にやってもらうのではなく、地域のことは地域で守るという気持ちも大切で、お互いに助け合うところを、若い人に見てもらうことも必要と思いました。

(角館) 千葉一明
委員

3地区のそれぞれの悩みを出してもらっているので、ある程度わかります。先ほど武藤委員がお話した様に、全体図をまとめて共通な形でもっていく必要があると。その中で一番根本なのが少子化、人口減少だと思います。クニマスなどの箱物を建てて観光にしようという気持ちはわかりますが、その借金は誰が払っていくのでしょうか。そういったことを考えて取り組んでいく必要があります。観光だけで末代まで食べていけるような市ではないと思います。そういったものよりも、暮らしている子供達が地元に対する愛着、興味が薄れてきているということが、田沢湖の提言書に書かれています。これです。この原因は何なのかを考えないといけないと思います。失礼ですが、この委員の方々が30代、20代が何人いるのでしょうか。ほとんど高齢です。もう少し委員の選出方法も考えなければならぬと思います。角館のお祭りをアピールして、戻ってきてもらえないだろうかなどはその日だけです。もっときめ細かいものにしていくためには、そこに住んでいる一人ひとりが幸せだと感じることを取り組んで行かないといけないと思います。観光客を呼んで、一時的にしのごという問題ではないと思います。観光といっても一部の方だと思います。観光に携わっていない市民の方々が大多数です。観光に対して税金を使って、東京にいったアピールなどいろいろやっていますが、その恩恵は観光で食べている方々だけです。私はもう少し考えるべきだと思います。観光は観光で良いですが、それ以外の方々が所得を10%といわず5%でも、

門脇市長が望んでいるものにするためには、どういったことに取り組むべきか、どんなアイデアが必要かを考えていくことが大事だと思います。確かに私の家のまわりも、かなり観光客がいます。ただ、周りの人は観光客と行き会っても「こんにちわ」という挨拶を聞いたときはほとんどありません。それは地元の方々がもう少し潤っていないと、幸せでない、仙北市を愛していない、そういった言葉はでてこないと思います。根本の所から考えていかなければならないと思います。門脇会長からかたまえ山の件がでました。私は当時指定管理者の選定委員をやっていましたが、その時候補となったのは田沢湖の業者でした。地元から今日のような提案が出されていれば、私は地元の方々が選定されたのではないかなと思います。これを見たら地元の方々がかたまえ山に熱を入れて、取り組んでいきたいと。地元の方々の力も活用され、就職先も増え、とてもいい内容だと思います。倉橋副市長も言いましたが、クニマスと連携してかたまえ山を考えるとということだったので、市でも別々に考えるのではなく、かたまえ山も整備していくのではないかと思います。我々も影ながら応援したいと思いました。

門脇市長

今までの皆様のお話を聞いて、所得10%というお話で各地域の課題解決の手法をお話いただいた根底は、地域を守っていく、支えていくという基本があるからこのような議論になっていると思っています。人口減少については、私の分析では、要因はある程度整理が出来ている状況です。関連しますのでお話をさせていただくと、平成23年の東日本大震災以降において、観光客が秋田県内で23年以前の状態に戻っているのは仙北市だけです。しかし、その観光客数の消費金額は23年度以前に比べても落ち込んでいます。数が回復したとしても、それに見合った消費がないという状況です。それはなぜかと各方面の方々に投げかけしています。自分の中では観光事業がもたらす経済効果が5年10年前から変質しているのではないかと。滞在時間を延ばすことが強みになってくることは手法として正解と思っています。その他に観光客の方々のトレンドの違いがどこにきているのかということは見極めなければならないと思っています。観光産業の一つの分野とあって、例えば農業と観光業が関連していないかということと大きく関連していて、例えば仙北市にお越しいただいたお客様に対して、仙北市で生産されたおいしい食材を用いて食事を提供できているのかと。何回もやっていることですが、もう一度アクションをかけなければならないと思っています。それから工場見学もよく行われています。観光と言えば観光ですが、工場見学という考え方からいくと、樺細工、イタヤ細工等を行う方々が、観光客とどういった関連があるかも見なければなりません。先ほど話した産業の基本条例にうたった

ような、全ての方々の思いは仙北市の発展になるという積み上げ、ネットワークをもう一度結びなおしていくのが何よりも大切ではないかと思えます。人口減少問題は、産業振興から一定の改善、その早さを鈍化させることができるのかなと思っています。議会の方々とお話するときは、定住の循環の法則と言っています。子供達が子育てを必要とする世代、それから学校の問題、進学の問題、これが全部おこることの要因は、そこに子供がいるからおこります。そこに子供がいなければ教育問題は発生してきません。逆説の話ですが、まず子供が生まれることが大切ではないかと。その子供が生まれるためには、ここに住み続けたいと思う若者を増やすことが何よりも大切だと思えます。ここに若者が住み続けるためには、ご飯を食べなければなりません。その糧として職場作り、就職先の作り方は産業振興につながっていきます。全ての政策の一步は産業振興がうまくできるかということにかかっているのではないかと話しています。色んな誤解もあると思えます。気持ちとしてはこういった気持ちであるということです。良い機会でしたのでお話をさせていただきました。

(西木) 門協会長

角館の千葉委員がおっしゃったことは最な事だと思えます。仙北市は合併に至る時点から、北東北の観光拠点都市を目指すことをスローガンとしながら、それに向かって進んできました。観光に携わっていない一般の農家の方々が、観光で潤わないという話しをするとすれば、それは違うと思えます。家の近くではクリオンやかたくり館、むらっこ物産館で、農家の方々が作りたいぶりがっこ、焼き餅など、素材が提供されています。農家が観光で潤わないということはありません。農家に観光の発展が及ぼしていないという考え方ではなく、それが仙北市の発展につながるということはあると思えます。まだ足りない部分があると思えます。一般農家の方々に今やっている以上に、いい意味での影響が及ぶように政策を行っていくべきと思えます。

(田沢湖) 小松委員

観光資源についてですが、お金の面でなくても、暮らしていく中で楽しむという部分も、観光資源の使い方も検討する必要があります。私も田沢湖に生まれて、大学から10年東京に行ってきました。やはり地元が素晴らしいと、観光の町ということもあつたと思えますがすごく愛着があります。帰って来たいという気持ちがあり、その機会があつたから帰って来ました。友達も何人も遊びにきてくれます。日帰りで温泉に入りにいこうと思えば、車で30分もあればいけます。全国の皆さんはそれに何万円もかけて来てくれるということもあるので、知らないから観光に携わっていないことではなくて、地元の方々が観光資源を楽しむ様な仕掛け作りを、私個人としても何かやりたいなと思っています。そういった方向性で何か考えていただけるようなきつ

(田沢湖) 中村会
長

かけにしてもらいたいと思います。

当審議会では独自テーマで観光をあげました。ただ、観光施設にお客さんと呼んできたということだけでなく、お客さんが来ることにより消費拡大につながっていくと思います。それによって市長や門脇会長からもお話がありましたが、農産物を消費していく、あるいはそれらを販売していく、雇用を拡大していくことができると思います。そして定住化も図れるような形になっていき、人口増につながると思います。関係者の意識改革が新たな誘客をもたらし、PR効果がでてくると思います。いろいろな結びつきがでてくると思います。小さいことだとお土産の開発など、新たな産業の拡大にもなると思います。そういったことも考えながら、私どもの答申書・提言書の中には出ていない部分がたくさんありますが、その点についても話し合ってきました。ただ観光ということだけでなく、包括的な中で観光ということを話し合ってきたことを付け加えたいと思います。

門脇市長

数十年前の仙北市のある公民館で面白い活動がありました。それは結婚したカップルを一日バスでつれまわします。例えば生まれが仙北市の男性に、市外、県外からお嫁さんがきたと。1～2年もたっているが仕事が忙しくて、中々市外のことをよくわからないという方のために、市内研修会を開催するというイメージです。そうすると改めて嫁いできたお嫁さんから感動の声をいただけます。良いところに嫁いできたという話しです。それを聞いた旦那さんが、えっ！と驚く場面が多々ありました。観光はお金に変わることが大前提と思っていますが、自信がつながるということは大きな効果だと思っています。再発見を人の目をかりて行わなければならない状況が、仙北市の中であるのかなと思っています。出張にいき、仙北市がわからないとなれば、田沢湖、角館、西木と話せば、行ったことがありますと返ってきます。市民の方々には、そういったすばらしい素材に恵まれたところで毎日を暮らしているという自信をもっていただきたいと思います。そういう自信が新たな挑戦にもつながっていくと思います。

事務局 平岡課長

それでは他に意見がないようでしたら、これで意見交換を閉じさせていただきます。2年間に渡りまして、人口減少や産業振興、多岐にわたってご意見、ご提言いただきまして厚く感謝を申し上げます。本格的な予算編成作業を今後迎えますが、先ほど副市長が申し上げましたとおり、わかりやすくバランスのとれた計画作りを念頭に作業を進めさせていただきたいと思います。前回、各地域審議会において、庁舎の整備についてご説明を致しました。限られた時間ではありましたが、ご意見を賜りました。市では今の日程ですが、来春の議会に議案とし

て庁舎関連の予算、条例の改正について上程したいと考えております。審議会の皆様には新市建設計画に関する各地域の課題について、ご審議賜っておりますが、仙北市の今後のあり方を左右する大きい課題でもあります。年明けに合同審議会という形かもしれませんが、ご説明させていただき、議会に臨みたいと思っています。何卒よろしくお願い致します。現在市民説明会を開催中でして、田沢湖地区について田沢・生保内・神代が開催済みです。明日から西木地区、角館地区ということで市民説明会を開催する予定になっています。そうした中での議論の内容についても、ご説明申し上げながら、年明けに最終的な市の方向性をご説明申し上げましてご意見を伺いたいと思っております。それでは大変お忙しい所お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして本日の会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(1 1 時 2 0 分 終了)

※終了後

(田沢湖) 小松委員

観光連盟で市内を巡るバスを有料で出していたが、利用者がほとんどいなかった。市長が話した新結婚者に対するバスツアーなどを企画するにしても、新たに市でバスを運行させるではなく、観光連盟と連携した形で既にあるバスなどを利用する形で検討はしてもらいたい。